

令和6年 3月 29日

国立がん研究センター理事長 殿
国立がん研究センター中央病院長 殿

国立がん研究センター中央病院
医療安全外部監査委員会
委員長 山本 修一

令和5年度第2回医療安全外部監査委員会 監査結果報告書

1. 日 時 : 令和6年2月6日(水) 13時00分～15時10分 管理棟1階 第1会議室

2. 監査委員

独立行政法人地域医療機能推進機構	山本 修一	理事長
千葉大学医学部附属病院 医療安全管理部	相馬 孝博	副院長／部長
順天堂大学医学部 心臓血管外科学・病院管理学	川崎 志保理	客員准教授
さわやか法律事務所	田島 優子	弁護士(WEB参加)
一般社団法人 CSR プロジェクト	桜井 なおみ	代表理事(WEB参加)

3. 令和5年度第1回医療安全外部監査委員会監査結果に対する当院の対応

- 1) 患者と共に医療安全体制を築いていくためには、患者に医療安全の取り組みを理解していただくことが重要になる。まずは、患者と大きな関わりのある患者誤認防止の対策について理解いただくために、毎度氏名と生月日を聞いている理由を院内放送等で紹介して、協力をお願いするといった取り組みを検討していただきたい。

<対応>

令和5年8月初旬より10時と16時に館内放送を流し、患者さんにフルネームを名乗っていただくよう協力をお願いした。また、同年12月18日より2つの識別子による患者確認に方法を変更したことにより、放送でフルネームと生年月日をお聞きすることをお知らせし、外来サイネージでも患者さんからフルネームと生年月日を職員へ伝えてもらうよう放映している。(委員会了承)

- 2) 高難度新規医療技術が適切に実施されているか評価するタイミングについて、実施症例を評価期間内に複数のタイミングでカルテレビューするような確認体制を整備していただきたい。

<対応>

令和5年7月より評価委員会で技術ごとにモニタリングするタイミングを意見聴取し、その意見を踏まえた複数のタイミングでモニタリングを実施する運用を開始した。さらに同年11月より、実施後のモニタリングだけではなく、実施前のモニタリング(当院での実施症例数を説明したことを記録しているか、説明時に看護師が同席し理解度確認を行っているか等)についても実施している。(委員会了承)

- 3) 外科系・内科系症例検討会の検証結果や取り組みを教訓として記録に残すことは重要であ

る。組織として症例に対してどのような検証をしたのか、意思決定の過程がわかるよう病院の記録として残していただきたい。

<対応>

外科系症例検討会では報告内容の記録のみであり、検討内容を記録として残していなかったため、令和5年11月の **Morbidity and Mortality Conference** より対策を含めた検討結果を記録として残し、内部サーバーで全職員が閲覧できるようにした。検討内容はまだ十分とは言えないため、今後充実化を図る。なお、内科系症例検討会は、以前から記録を残して内部サーバーに掲載している。(委員会了承)

4. 令和5年度第2回医療安全外部監査委員会 監査結果

- 1) 放射線オーダの誤りなど、現在、疑義照会報告としているインシデントについては、医師へのフィードバックを確実に実施し、事象の再発防止に努めていただきたい。また、現状の集計方法や報告体制については、再検討をお願いする。
- 2) 院内の簡易迅速検査使用の実態とパニック値に対する報告体制について、次回、現状をご報告いただきたい。また、フローやマニュアルがあれば、併せてご提示いただきたい。
- 3) 造影剤を含め、院内すべての医薬品を医薬品安全管理責任者が把握し、管理している体制について、次回ご報告いただきたい。
- 4) インシデント事例の再発防止策や管理目標の達成に向けて、抜本的な改善活動がなされているか監査するため、本委員会毎に医療事故等防止対策委員会の議事要旨を提示いただきたい。

5. 総評

病院機能評価で大変忙しい中であったが、医療安全活動について明確な計画のもと PDCA サイクルをまわし、全体的に素晴らしい取り組みがされていることを確認した。引き続き、がん医療のトップとして尽力していただきたい。

以 上